

発行

岡山県民主医療機関連合会

岡山市北区下伊福西町 1-53

岡山県民会館 3 F

TEL (086) 214-3911

2019年2月号 No.337

E-mail:kikanshi@okayama-min-iren.org

URL:http://www.okayama-min-iren.org

おかやま民医連

3・11への祈り

◆日時：3月10日(日) 10時～16時
 ◆会場と内容：①午前(石山公園) 10時～11時 トーク&ライブ(匿名宇摩さん、あふりらんぼのオニさん、ハブヒロシ)、11時10分～さよなら原発ウォーク ②午後(岡山バプテスト教会) 13時～14時 トーク&ライブ(大塚愛さん、まじょりんさん、トーク) 3・11についての想いを語り合う(集会参加者とのマイクリレー) 14時30分～追悼会、15時～トーク&ライブ(トウヤマタケオさん他)、16時終了



笑顔で再出発する職員のみなさん

西日本豪雨災害よりちょうど半年が経ちました。真備歯科診療所は一月七日に再開しました。

被災後職員は茫然自失の中で泥まみれのカルテと洗えば使えそうな機材を職員総出で回収しました。

被災後からは真備地域の避難所に全日本民医連からの歯科医療支援も受け、週三日二ヶ月間訪問を行い、計一〇〇人以上の方を治療してきました。

また一ヶ月後から(OBや他の歯科の職員の力も借りて)被災した組合員のお宅を訪問しました。三ヶ月で真備町全体と工場爆発事故の被害も受けた総社下地域と合わせて三千世帯以上を訪れ、千人以上の方と対話できました。

被災したにも関わらず、対話した組合員さんからは訪問した職員に「頑張つて、一日も早く真備歯科を再開

復興への第一歩

真備歯科診療所再開



新人社員研修 (4月)

岡山県民医連では、青年職員に様々な研修制度を設けています。平和や社会保障の話聞くほか、青年どうしのディスカッションの機会もあり、悩みや不安などを出し合い、交流しています。ここでは青年職員さんのひとり、吉田幸奈さん(林道倫精神科神経科病院)の感想をご紹介します。

青年職員のひとりとして民医連の様々な研修に参加させていただき、今

他院所の方との関わり大切 青年職員研修等の取り組み

まで知らなかった多くの学びが得られています。また、他の院所の同世代、同職種の方と関わることや、実践とは少し離れた座学・フィールドワークから見えてくる仕事の意味や自分の価値の再発見も、研修ならではの貴重な学びと感じています。

若手職員は節目節目の研修で院内・県内・全国の仲間と切磋琢磨し、自分の仕事の意味を再確認しながら、日々の業務にそれを活かしています。

職場も大変お忙しいと思いますが、先輩職員の方々は青年の成長のためにも積極的に外部研修へ送り出していただければと思います。

して欲しい。」と逆に励まされました。

年末に予約の受付を開始すると電話が鳴りやまず、被災前の七割まで患者さんから予約が入り、現在八割の水準まで戻っています。

しかし、被災地域の患者さんはみなし仮設などで真備には戻っていない方が多く、主には周辺地

域にとどまっています。またいつ切られるか分からない医療費の減免や住居の不安もあり、未だに取り壊しが進む周辺の家屋をみると長期のスパンで生業と住居、コミュニケーションの復旧が大仕事と感じています。

小坂 勝己 (真備歯科診療所事務長)

点 滴

昨年12月14日の辺野古への土砂投入の映像に今でも胸がつかぶされる思いです。かけがえない自然を身勝手な理屈で破壊する人間の

おごり、無知に怒りを感じずにはいられません。こんな暴挙は絶対に許されないと国民の声が国内はもとより世界の人たちにも広がっています。

瀬長亀次郎さんの「弾圧は抵抗を呼ぶ。抵抗は友を呼ぶ」という言葉がありますが、まさにその通りではないでしょうか。

▼安倍政権が暴走すればするほど、市民の抵抗と闘いは強く大きくなっています。一人ひとりの力は微力であっても、決して無力ではありません。その力が社会をかえる———そのことを強く実感しています。

▼岡山県内からも沖繩県知事選挙の支援に多くの皆さんが参加されました。沖繩に連帯する運動に全国の民医連組織がこころ一つに結集し奮闘されています。あらためて、この組織の一員であることに誇りと勇気をもっています。▼今年には統一地方選挙、参議院選挙と大きな選挙が連続してあります。政治をかえるチャンスです。沖繩では、イデオロギーよりアイデンティティを合言葉に一致点にもとづく共同で勝利しました。今度私は私たちです。平和と戦争はコインの裏表、「大砲かバタカ」正面から問われています。「人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります」———この綱領が今こそ輝く時ではないでしょうか。

(U)

真実学び発信を

2018平和ゼミ沖縄フィールドワーク

平和ゼミナールは、青年職員が様々な学習や経験を通して平和を学習する場で、過去5年間で46名が卒業しました。そして1月25日〜27日、今期参加の6名が沖縄フィールドワークに参加し、充実した学びを得ることができました。今回は参加者の感想を一部紹介します

○第1日目「南部戦跡めぐり」南風原文化センター資料館・沖縄陸軍病院南風原豪群20号、糸数アブチラガマ、ひめゆりの塔・資料館、魂魄の塔・米須海岸

葉が印象に残った。また、(沖縄にルーツを持つ)私の祖先の方はこのなかを生き残ったんだと思うと、自分まで命が繋がっていることの尊さをとても感じた。

○第2日目「米軍基地問題との闘い」嘉数高台(普天間基地)、沖縄国際大、米軍基地外住宅、嘉手納基地、辺野古

が子の死を認めることのできなかった母親の話を聞くと、いくら国のためという思いがあっても家族の絆が変わらないものだと思つたし、二度と繰り返してはいけなかつた。講師の佐々木さんの「平和な時に、戦争の準備は始まっている」という言



説明を聞いている最中も頭上を米軍機が



ひめゆりの塔前



辺野古テント村で

な現状が本土復帰後も続いていることを、もつと本土の人達を知っておかなくてはいけないと思つた。基地以外で米軍人が生活し、その45万円もする家賃を日本が思いやり予算で出していること、防音のための植物の予算があつても、実際には

植えられていないことに驚いた。

○第3日目「県民投票と瀬長亀次郎」返還前から沖縄の人達の権利を訴える活動があつて、今の沖縄があるのだと知つた。占領下の人達のことをほとんど知らなかつたので、もっと知る努力をしていかねばと思つた。



米軍ヘリ部品落下の被害を受けた緑丘保育園

問題解決の視点養う

第1回ヘルスプロモーションセミナー



根岸京田先生



2018年12月16日、岡山コンベンションセンターで「岡山県民医連第1

やっと勝利判決

広島高裁一審判決を支持



然サービスを打ち切りました。その後やむを得ず介護保険を申請し、我慢と負担を強いられることになった

2018年12月13日、広島高裁岡山支部で「65歳になつた障害者は介護保険優先とした岡山市が間違っている」との判決が出ました。約6年前、65歳の誕生日を前にした重度障害者の浅田達雄さんが、介護保険の申請をせずに障害福祉サービス(非課税世帯のため無料)の継続を求めたところ、岡山市は障害者自立支援法第7条の介護保険優先を理由に突



勝利判決を喜びました。上告やめよ要請の結果、12月18日の岡山市議会最終日に、大森雅夫市長が最高裁判所への上告断念を報告。反省や謝罪はありませんでしたが、判決が確定しました。待ちに待った判決を弱者に冷たい岡山市を変える力にしていきたいと思

(岡山市民医連事務局 大坂 圭子)

回ヘルスプロモーションセミナー」が開催されました。学習講演では「SDH、HPH、社会的処方、そしてまちづくりへ」と題し、根岸京田先生(全日本民医連医療介護福祉部)がお話しされました。1967年にロンドンの公務員約2万8千人を対象に始まった「ホワイトホール研究」。その後の研究で、雇用形態や食生活、学歴、交通アクセスなどに至る社会的要因が、その人の健康状態を決定付けることが解明されました。根岸先生は、民医連や共同組織が早くからこうした視点で地域での健康づくりや住民ネットワークづくりなどを構築、「社会的処方」を進めてきたことを紹介。この日のワークショップでは、事例をもとに患者さんの社会背景を推測し、どのような支援が必要かを挙げながら問題解決へ結びつける視点を養いました。(岡山県民医連事務局國塩聖和)